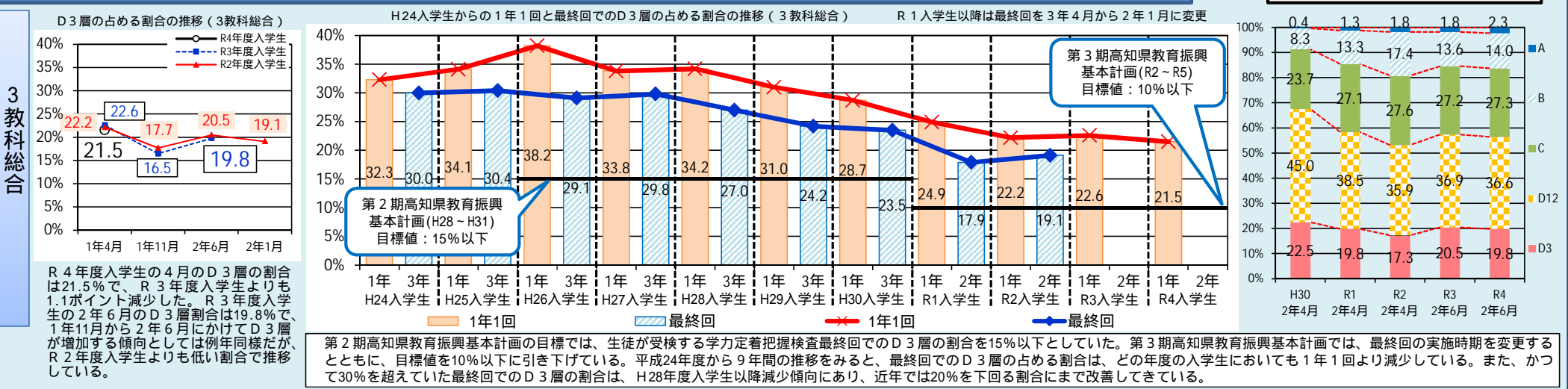


概要

入学から卒業までを通じてすべての生徒に基礎的な学力をしっかりと身に付けさせ、個々の生徒の学力に応じた指導内容を確立するために、特に各校の授業改善等の取組を一層推進する。この取組がより実効性をもつように、「学校支援チーム（授業改善・学校経営）」の体制を充実させ、学校訪問等を通じて、これまで以上に各校の取組に対する支援の充実を図る。

1 現状（基礎力診断テストの結果）（全36校中進学に重点を置く学校を除く29校（全生徒数の約7割）が対象）



2 学校支援チームの取組

学校支援チームの目標と、授業改善及び学校経営の支援に向けた方策

これまでの主な取組状況

【目標】	【評価指標】（（ ）はR4の目標値）	【取組内容】	【取組状況】															
R5年度末での2年生1月の学力定着把握検査における3教科総合のD3層の生徒の割合を10%以下に引き下げる。そのために、R4年度1年生11月時点でのD3層の生徒の割合を16%以下にする。	授業改善に向けた3つのポイントの徹底 （～：「概ね達成できた」80%以上） 授業におけるねらいが提示されている生徒が自分の考えを表現する場面がある 授業を振り返る場面が設定されている 【R3結果】 76.3% 73.7% 67.2% 学校経営計画の進捗管理 ・学校経営計画の目標が概ね達成できた（95%以上）	授業改善・学力向上 ・学力定着把握検査の実施・分析（年2回） ・授業、教科会への指導・助言 ・年次研修対象者への指導・助言 ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善についての指導・助言 学校経営支援 ・各校の学校経営計画への指導・助言 ・新学習指導要領の理念の徹底 ・組織として取り組む授業改善の方策についての指導・助言	学校支援チームの訪問 （単位：回） <table border="1"> <tr> <th></th> <th>4月～7月</th> <th>昨年度</th> </tr> <tr> <td>授業改善</td> <td>161</td> <td>556</td> </tr> <tr> <td>学力向上</td> <td>36</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>学校経営</td> <td>36</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>233</td> <td>772</td> </tr> </table> 授業改善 ・「高知県授業づくりBasicガイドブック」の趣旨に沿った指導・助言 ・教科会にて生徒の実態に応じた指導内容や方法、観別学習評価に係る協議の実施 ・1人1台タブレットを含めたICTを活用した授業実践の促進 学校経営 ・管理職に対し学校経営計画の進捗管理、学力向上及びカリキュラム・マネジメントについての指導・助言 学力向上に係る第1回研究協議会の実施（8月24日開催） ・新学習指導要領を踏まえた学習評価のあり方と各校の授業改善の取組について情報共有（参加者：全36校、36名）講演講師：石井英真氏（京都大学大学院准教授）		4月～7月	昨年度	授業改善	161	556	学力向上	36	108	学校経営	36	108	計	233	772
	4月～7月	昨年度																
授業改善	161	556																
学力向上	36	108																
学校経営	36	108																
計	233	772																

3 成果及び課題

授業改善・学力向上について

既習内容の定着に向けて、復習教材等を春休みから活用することができている。支援チームによる授業参観において、各教科最低1回はICTを活用した公開授業を行うこととしており、1人1台タブレットを含めたICTを活用した授業が順次実施されている。学年が上がる際の既習内容の定着に向けた取組の工夫が十分でない現状がある。生徒が自分の学びを振り返る場面の設定について、不十分な授業がある。

学校経営支援について

昨年度に引き続き新人管理職が一定数おり、1・2年目の管理職が全体の約4割を占めているため、直接指導・助言を行うことで、学校経営への意識を高めることができている。学力定着把握検査や県オリジナルアンケートの結果をもとに、各学校において学力検討会による情報共有や指導と評価の一体化を目指した授業改善ができ始めており、管理職を中心としたカリキュラム・マネジメントが進みつつある。学校経営計画推進のための取組やツール等は各校工夫して数多く実施しているが、適切かつ効果的な手立てとしきれていない学校がある。

4 今後の取組の方向性

授業改善・学力向上

高校での学習内容が深まる2年生の学習の充実に向けて、既習内容の定着と新たな学習内容の理解を意図した授業実践への支援を推進するとともに、指導と評価の一体化研究事業における各教科等研究協議会の実施や学習評価研究委員会との共同研究をとおして、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の実現に向け支援を強化する。情報教育担当班との連携を強化し、ICT授業改善アドバイザーとともに授業訪問をするなど、1人1台タブレットを効果的に活用した授業実践を推進する。1年生11月、2年生1月の学力定着把握検査に向けた今後の取組について、各校の学力向上プランの進捗状況や各校の検査結果を踏まえた協議内容となるよう、学校訪問の内容を充実させていく。生徒に学びの自己調整を行う力を付けるために、振り返りシートや1人1台タブレットの活用など、より適切な学習目標の設定と効果的な振り返りの内容・方法について、学校訪問をとおして工夫を促していく。

学校経営支援

10月の学力向上に係る学校訪問時に1・2年目の管理職を中心にカリキュラム・マネジメントの進捗管理を行うとともに、実施済み検査の結果をもとに次回（特に2年生1月）に向けた各校の組織的な取組への指導・支援を行う。1～2月の学校経営に係る学校訪問時に、学校経営計画の中間評価結果を踏まえた取組内容の確認と進捗管理を行い、次年度の計画につなげていく。